

県土 第09-134号

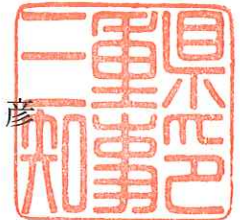
平成21年2月10日

国土交通省近畿地方整備局長

木下 誠也 様

三重県知事

野呂 昭彦



淀川水系河川整備計画の策定について（回答）

平成20年6月20日付け国近整河計第13号で照会があったことについて、平成20年11月11日の四府県知事合意も踏まえ、三重県として下記のとおり回答いたします。

なお、意見についてよろしく御配慮頂きます様をお願いします。

記

1. 木津川上流域（名張川含む）の河川の整備・維持管理のあり方に関して

（1）治水

- ・淀川水系河川整備基本方針で示された「一部の地域の犠牲を前提としてその他の地域の安全が確保されるものではなく、流域全体の安全度の向上を図ることが必要である」との認識にたって、下流河川の治水安全度を考慮しつつ、木津川上流域（名張川含む）の治水安全度向上に着実に取り組むこと。
- ・近年、全国各地で局地的な豪雨が多発している現状を踏まえ、計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力を上回る洪水が発生した場合において、被害を可能な限り軽減させる「減災対策」に、ハード・ソフト両面にわたって積極的に対策を講じること。

（2）水資源の安定した利用

- ・近年の異常気象に伴う渇水リスクの増大を踏まえ、安定した水資源の確保に努めるとともに、効率的な水利用が図られるよう積極的に取り組むこと。
- ・特に、川上ダムが完成するまでの間、伊賀地域の安定した水資源が確保



できないことから、渇水時に水資源の有効活用が図れるよう、国は適切に関係利水者間の調整に努めること。

### (3) 河川環境・利用

- ・河川の整備・維持管理にあたって、特別天然記念物オオサンショウウオに代表される木津川上流域（名張川含む）の特徴ある動植物の多様な生育・生息・繁殖環境の保全・創出に積極的に取り組むこと。
- ・治水・利水・環境との調和を図りつつ、住民や地域の意見を反映させるなど、様々な河川利用のニーズを踏まえた水辺空間の整備・維持管理に努めること。

### (4) 上下流連携の構築

- ・木津川上流域（名張川含む）には、多くのダムや遊水地が存在し、下流域の治水・利水にとって重要な役割を担っている。そのため、水源地域の活性化が流域全体にとって重要な課題であることを認識し、上下流の交流と連携を一層深め、相互に理解と協力を得るための施策を関係機関と連携し積極的に実施すること。

### (5) 河川の整備・維持管理に要する費用、スケジュールに関して

- ・今後も地方財政は厳しい状況が予想されるため、国は、河川の整備・維持管理にあたって徹底したコスト縮減に努めるとともに、事業費、整備スケジュールについて県民の理解が得られるよう、事前に協議調整を図ること。

## 2. 川上ダム及び各河川改修事業の推進に関して

### (1) 川上ダムについて

- ・ダム建設に伴う環境への配慮を行いながら、早急に整備を図ること。
- ・大型公共事業であるダム事業の特性に鑑み、特にコスト縮減に努め、負担の平準化を図るとともに、事業期間については、今後、淀川水系における水資源開発基本計画や川上ダム事業実施計画で定められる完成予定工期を遵守すること。
- ・利水撤退などの追加費用について十分協議調整を図ること。
- ・事業実施に当たっては、関係住民等の一層の理解を得るよう努めること。

### (2) 木津川について

- ・川上ダムの整備に併行して、上野遊水地事業の早期完成に努めるととも

- に、木津川、服部川及び柘植川の河道掘削等、河川改修を推進すること。
- ・木津川島ヶ原地区の一部堤防が完成していない区間について、早急に整備を図ること。
  - ・岩倉峡の開削については、下流河川の安全度を考慮した段階的な施行も視野に入れ、早期実施を検討すること。
  - ・上野遊水地の管理・運用に関する諸課題について、伊賀市等関係機関と十分な調整を図ること。

(3) 名張川について

- ・名張川の治水安全度向上のため、引堤及び河道掘削等について、早急に整備を図ること。
- ・青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダムは、下流の名張市街地に生活する住民の安全・安心を守る要となる施設であることから、ライフサイクルコスト低減の観点から効率的にダム機能を維持する取り組みを行い、併せて計画的に維持管理を実施すること。

(4) ソフト対策の推進について

- ・近年、地球温暖化がもたらす気候変動に伴い、治水安全度の低下が懸念されている。そのため、いかなる洪水に対しても洪水被害をできる限り最小化するため、国が積極的に関係機関と連携・調整を図り、ソフト対策を推進すること。

以上